

大平沢

一九八一年八月三〇日

朝霧にぬれながら旧国道を歩く。

すっかりした道である。モルゲンロートに向いの山は輝いている。時刻は六時を少しまわったところ。地下足袋のため、スタスタとスピーディに歩ける。

六時四五分入谷。水は冷たくない。水量もそう多くないので、あまり滝は望めそうにもないみたいだ。

稜線が間近のためか、支流が多い。そして、古い山地のため、ナメも多い。ナメはフリクシオンが良く効き、快適に登れる。岩魚がいそうであるが、二人ともそれに興味はない。

一時間も歩いて、やっと滝にあつた。「お前を待っていたんだよ。」

小滝を四つ過ぎてF1ー〇だ。そしてこれからナメと滝の連続となる。

大きい滝ではないが、五回クラスのものが続く。どれも難しくない。やはり期待は無理だ。ところが、素晴らしいナメが出てきた。長さは約二〇〇だ。程良い傾斜と沢床が黄色で

滑らかなため、まるで舗装の道のようにである。ジャブジャブと面白く歩いてゆける。水は溪流写真のように、滞らず、一糸乱れずに流れてゆく。まもなく伏流となり、ハイマツのブツシュをこいで県境尾根に出る。

(記)

「タイム」 遊行開始(六・四五) ↓伏

流(八・〇〇) ↓尾根(八・二五)

